鹿児島県立薩摩中央高等学校
高等学校DX加速化推進事業

DATE:	令和8年7月8日
Topic:	農業のDXについて外部講師講演会

本校では7月8日(水)に，生物生産科に於いて東京農業大学の地域環境科学部生産環境工学科バイオロボティクス研究室客員教授の西岡氏から，「植物の樹液流量による個体管理について」のテーマで講義を行ってもらいました。

植物の幹を流れる樹液に注目し、樹液の流れを測るセンサーを幹に取り付けることで、樹液の流れで植物の健康状態を数値化してデータを集めます。植物の健康状態を把握することで生産性の向上と品質の管理を行っていく新たな栽培管理の講話でありました。当日は、実物のセンサーやこれまで集めたデータを解析し、気温や日照などにより樹液の量が変化するグラフなどを交えてわかりやすく説明してくださいました。大変興味の持てる内容でもあり、講義を聴いた生徒たちからは，「DXを活用することで、農業に対するイメージが変わった。」「農業では見えない植物のことを可視化していくことが役に立つと思う。」「将来の自分たちが目指す道が確認できた。」，「これから先はデジタル活用力が必要であることが実感できた。」など、生徒から感想が。

次回は，学科の行事として、先端技術の視察研修を熊本県にある日本標準育苗に行き、植物工場に関する学習をする予定である。

※　本取組は「高等学校DX加速化推進事業」の一環で実施したものです。”



